

受賞のご挨拶

小生は現在 75 歳。遠からず、学究の世界から消え去ることになります。ただ、“静かに”消え去ることができれば、と願っていました。

そのような小生にとって、今回、第 1 回日本統計学会中村隆英賞を受賞することは、予想だにできなかった驚きでした。

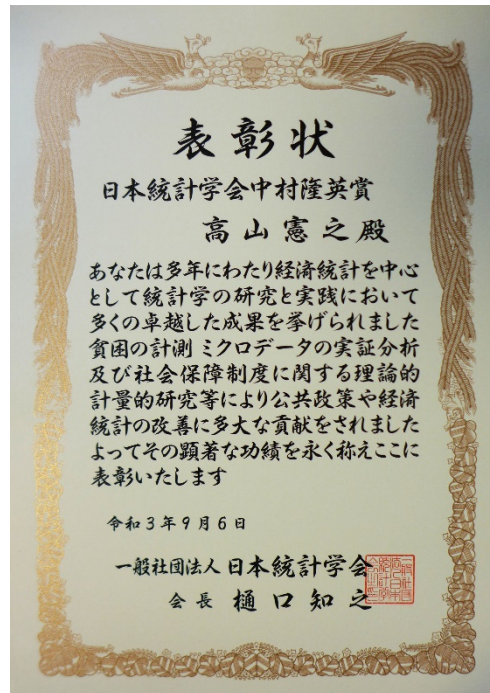
小生は大学の学部生時代、中村隆英先生がご執筆なさった教科書『統計学<上>』で、統計学の初歩を学びました。ご指導下さったのは腰原久雄先生(腰原先生の大学院時代における指導教授は中村隆英先生)でした。その後、大学院に進み、中村先生から直接、懇切丁寧なご指導を受けるようになり、研究者として知的に鍛えられる機会を数多く賜りました。

当時、中村隆英先生は、代表作『昭和史 I・II』の刊行を準備中でした。その内容に関連する叡智に富んだお話を、知的興奮を覚えながら何回となく拝聴することができました。この名著の中で中村先生は、数多くの統計データで裏付けされた事実を的確にお示しになりながら、いくつかの通説の誤りを冷徹にご指摘なさっています。同時に、経済だけに偏らず、政治・社会・国民生活・文化などにも幅広く言及なさり、鋭敏なご感性に基づいて、歴史的な悲劇の裏側には人々の善意が隠されていることを看破なさっています。まさに、統計学や経済史の泰斗にとどまることのない“知の巨人”でした。大佛次郎賞受賞者に相応しい科学者であり、人間精神を鋭くご洞察なさっていました。そして、この大著は密度が濃く、重厚であったにもかかわらず、読みやすさも兼ね備えていました。大著ご刊行後、中村先生には、引き続き、『明治大正史』のご刊行にお取り組みくださるよう、お願いしていました。

小生にとって中村隆英先生は、いわば、憧れのアカデミシャンでした。その中村先生の名を冠した賞、それも第 1 回目の賞を受賞することができたのは、この上ない名誉であり、また、喜びでもあります(受賞理由は下記のとおり)。

研究者として一人前になるために、私を親しくご指導下さったのは、中村隆英教授、宮崎義一教授、小宮隆太郎教授、宇沢弘文教授、浜田宏一教授、の 5 人でした。また、長年にわたり、自由に研究するための中核的な活動拠点をご提供下さったのは、一橋大学経済研究所と年金シニアプラン総合研究機構です。一橋大学では、溝口敏行先生、倉林義正先生から格別のご指導を賜りました。年金シニアプラン総合研究機構では福山圭一氏と吉野隆之氏から過分のご厚遇を頂戴しました。さらに、マイクロデータ利用の共同研究者として長期間、お力添えとお世話を賜ったのは、北村行伸教授です。他方、世代間問題プロジェクトの共同研究者としてパワフルにご助勢下さったのは、鈴木興太郎先生、玄田有史先生、青木玲子先生、小椋正立先生、小塩隆士先生、臼井恵美子先生です。加えて、旧社会保険庁が保有していた日本人一人ひとりの年金加入記録、それを転記した膨大なパネルデータの構築と利用に稲垣誠一先生は、類まれな知恵と多大なエネルギーをお貸し下さいました。この他、小生の研究秘書(菫澤まやさん、斎藤瑞穂さん、カン・ビクトリアさん、富岡亜希子さん)や多くの事務担当者(特に、中村廣宣さん、亀山幸子さん、河本あや子さん、宮田晴美さん、木崎久実子さん、岡村なな子さん等)さらには研究成果書の編集担当者(特に黒野幸春氏(中村隆英著『昭和史 I・II』の編集者でもあります))から、心温まる手厚いご支援を賜りました。

以上に列記した全ての方々に対して、ここに、改めて心より深く感謝申し上げます。



■受賞理由(日本統計学会のウェブサイトからの引用)

高山憲之氏は、経済統計に関する研究及び実務の両面において優れた業績を挙げている。高山氏の研究は、次の4つの分野に及んでおり、刊行された論文は高く評価されている。

第1は、貧困の計測に関する研究であり、新たな指標を考案し、従来とは異なる視点から貧困状況を包括的に捉えることを可能とした。

第2は、「全国消費実態調査」等の経済統計マイクロデータを活用した計量分析であり、その結果は政策形成に活用された。

第3は、年金を始めとする社会保障に関する研究であり、世代間の利害調整という新たな観点から、あるべき社会保障制度の理論的計量的研究を推進した。

第4は、経済統計のパネルデータに基づいた分析であり、自ら構築したパネルデータから就業、離職等に関する新たな知見を得ており、この分野におけるその後の研究に大きな指針を与えた。

また、高山氏は、統計審議会、年金審議会等への参画を通じて、これらの成果・知見が国の経済統計整備、社会保障政策等に活用されるよう尽力してきた。

高山氏のこのような経済統計の分析、理論、手法の発展に対する顕著な貢献は、日本統計学会中村隆英賞の受賞にふさわしいものである。



高山 憲之

一橋大学名誉教授・公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構理事長

「研究者としての歩み」:<http://takayama-online.net/Japanese/pdf/web/work20161006.pdf>

TAKAYAMA ONLINE: <http://takayama-online.net/Japanese/>